

施策の評価

施策の柱 柱① 特別支援教育の充実

1. 施策の主要目標の達成度

施策の主要目標	目標達成度	判断理由
<p>① 小・中学校、高等学校における特別支援教育を充実させる。</p> <p>目標達成のための主な手段 事業 54, 56</p>	C	<p>◆【目標】発達障害等の児童生徒が在籍している学校において「個別の指導計画」を作成している学校の割合 100%を目指す。</p> <p>◆【結果】平成 22 年度各校種の作成状況は以下のとおりである。特に中学校と高等学校の作成率が低く、課題がある。</p> <p>〈小学校〉89.0% 〈中学校〉59.4% 〈高等学校〉41.4%</p> <p>※校種別作成状況 = $\frac{\text{「個別の指導計画」を作成している学校}}{\text{発達障害等の児童生徒が在籍している学校}}$</p> <p>◆【資料】個別の指導計画作成率（「平成 22 年度特別支援教育体制整備状況調査」文部科学省の調査から）</p> <p>※個別の指導計画作成率 = $\frac{\text{「個別の指導計画」を作成している学校}}{\text{すべての幼稚園、小学校、中学校、高等学校}}$</p> <p>〈小学校〉57.3%（前年度比+13.0ポイント） 〈中学校〉35.3%（前年度比+13.9ポイント） 〈高等学校〉30.8%（前年度比+ 8.3ポイント）</p> <p>「個別の指導計画」の作成率の推移（高知県）</p> <p>個別の指導計画は、適切な指導及び支援を行うための重要な計画である。また、小中学校における特別支援教育学校コーディネーターは毎年3割程度が新任者であり、個別の指導計画の作成など各学校で特別支援教育を推進していくうえでの取組の継続性に課題がある。</p> <p>また、個別の指導計画を作成するための記入例を周知するなど、先生方が作成するうえでの手立てを講じていく必要がある。そして、教育事務所と連携して作成が進んでいない学校に対する学校訪問を強化する。高等学校については、巡回相談員派遣事業等の活用を推進していく。</p>
<p>② 特別支援学校高等部（本科）卒業生の就職率を向上させる。</p> <p>目標達成のための主な手段 事業 55</p>	A	<p>【高等部卒業生の事業所等への就職の状況】</p> <p>◆すべての高等部本科卒業生の内、就職した生徒の割合 【目標 25%】 27.7%（前年度比+5.9ポイント、目標比+2.7ポイント）</p> <p>◆高等部卒業生のうち就職を希望した者に対する就職者数の割合 【目標 100%】 100%（前年度比 16.2ポイント）</p> <p>高等部本科卒業生の就職した生徒の割合は 25.0%の目標を達成した。そして、就職希望者に対する就職者数の割合も 100%達成できた。</p> <p>しかし、今後に向けて取組の維持・継続と就職を可能とする環境を整えるためにも、就職アドバイザーを配置し、実習先の確保や就職を希望する生徒の職場開拓を推進し就職率を高める。</p>

2. 施策を構成する個別事業・取組の評価結果

個別事業・取組	目標達成度	検討項目	総合評価
54 特別支援教育総合推進事業	C	工	<p>昨年度に比べて各校種共に個別の指導計画の作成率の割合は高くなっている。</p> <p>しかし、目標はLD等発達障害のある児童生徒が一人でもいると学校が認識しているのであれば、その児童生徒の指導の手立てを示す個別の指導計画を作成する必要があるすべての学校であるため設定した。全国平均を目指すのではなく、一人一人の児童生徒を大切にするための指導の充実という目標に迫るため、計画作成率の目標値は100%に設定した。</p>
55 進路開拓推進事業	A		<p>すべての高等部本科卒業生に対する就職率は、27.7%（国立、市立含む）であったが、高等部卒業生のうち就職を希望する者に対する就職者数の割合は100%であった。</p> <p>ハローワークや知事部局にある障害福祉課障害者就労支援チーム等の関係機関との連携も進んできている。</p> <p>今後の取組を充実させていくためにも、本県における障害者雇用情勢に応じたキャリア教育、進路指導を推進していく。</p>
56 県立特別支援学校再編に伴う施設等の整備	B		<p>田野分校のエレベーター及びトイレ等の改修が平成23年度も継続するが、教室等の施設の改修は年度内に工事を完了させることができた。</p> <p>平成23年度は、高知みかづき分校の作業棟等の改修がある。計画的通りの円滑な事業を実施する。</p>

3. 施策の総合評価と今後の方向

総合評価	目標達成度	<p>◆個別の指導計画の作成率については、巡回相談員派遣事業で個別の指導計画の作成を求めたことや研修会等で機会を捉えて説明したことで、各校種共に昨年度との比較でポイントが高くなってきた。</p> <p>◆ハローワークや知事部局の障害者就労支援チーム等の関係機関と連携することで、就職率や就職希望者数に対する就職者数の割合も昨年度と比較してポイントが高くなっている。</p> <p>◆各事業について目標数値と開きのある事業もあるが、昨年度と比較するとポイントは概ね高くなっている。</p>
	B	
今後の方向		<p>◆発達障害のある幼児児童生徒の教育的ニーズに応じた支援の在り方（指針）を策定し、各課の事業等で予算化し具体的支援・指導の強化を図る。</p> <p>◆平成23年度から日高養護学校高知みかづき分校、山田養護学校田野分校が開校する。今後就職を希望する生徒の増加が想定される。山田養護学校と日高養護学校に就職アドバイザーを配置し、実習先の確保や就職を希望する生徒の職場開拓を行う。</p>